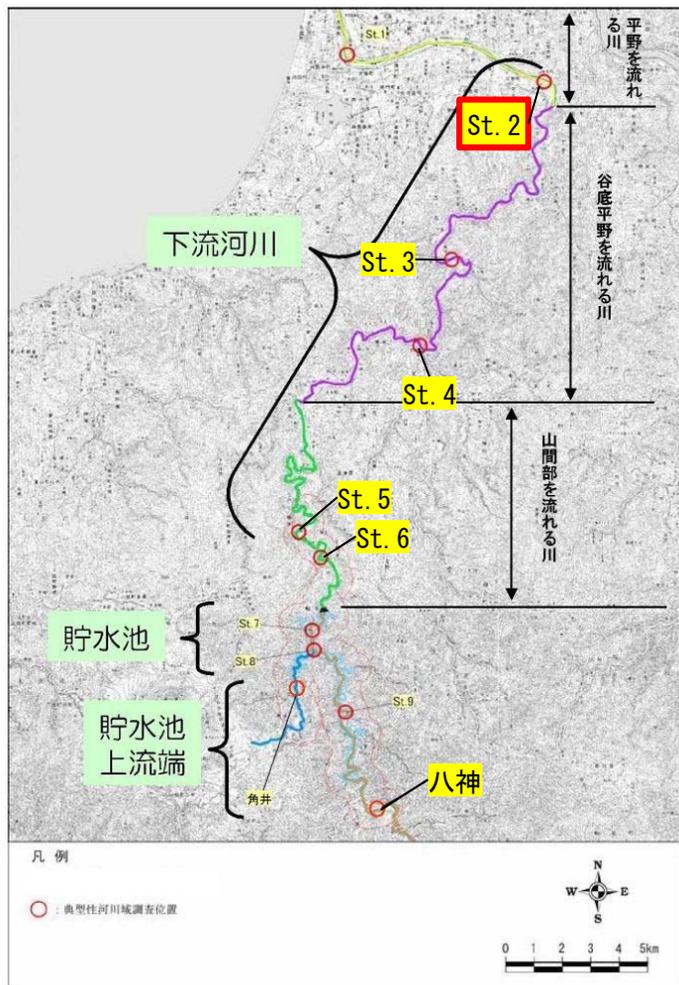


# 3. 神戸川の水質について 河床材料

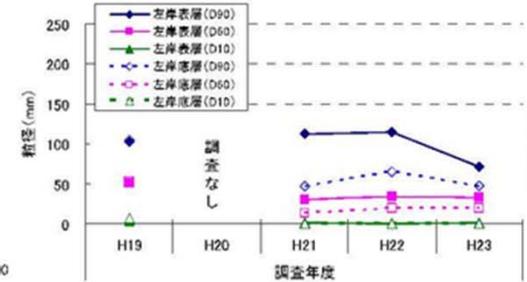
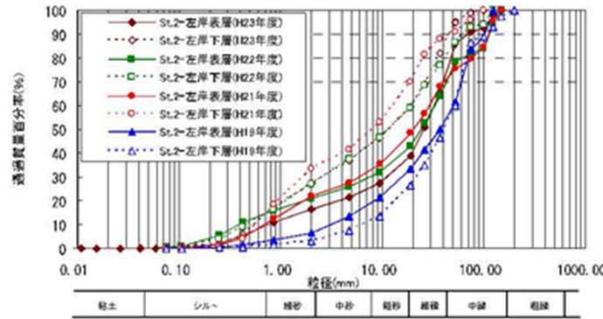
## ■粒径加積曲線（平面採取法）

いずれの地点でも、概ね粗石（75～300mm）から2mm以下の砂分まで幅広い粒径分布となっている。

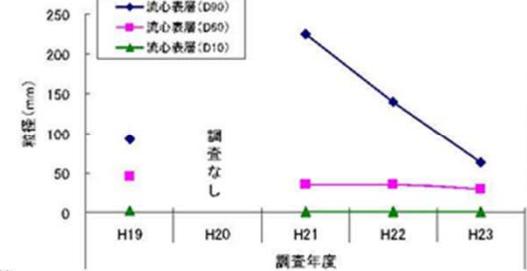
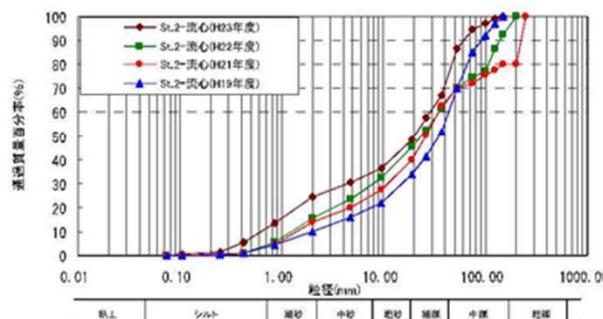


※第6回志津見ダム・尾原ダムモニタリング委員会配布資料（資料-4）より引用。

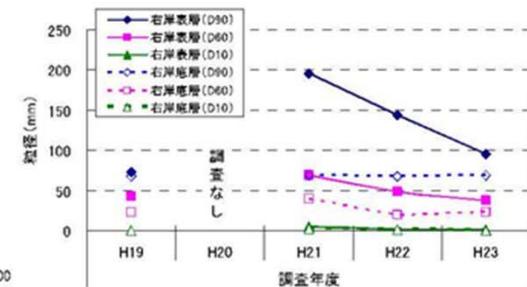
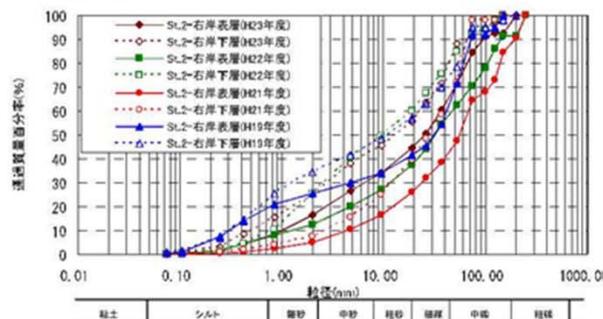
### 左岸



### 流心



### 右岸

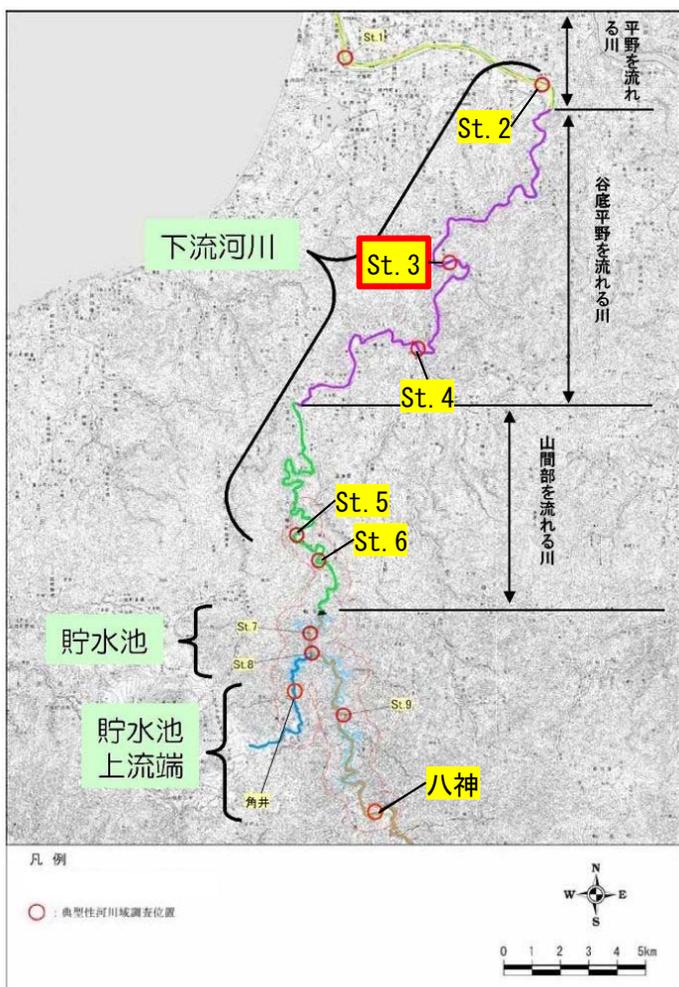


St. 2（平野部）

# 3. 神戸川の水質について 河床材料

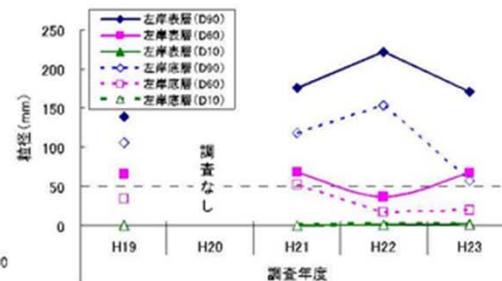
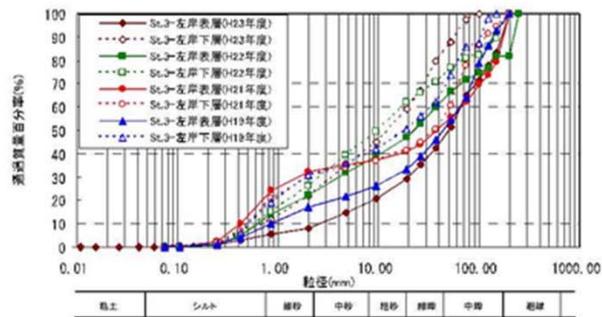
## ■ 粒径加積曲線（平面採取法）

いずれの地点でも、概ね粗石（75~300mm）から2mm以下の砂分まで幅広い粒径分布となっている。

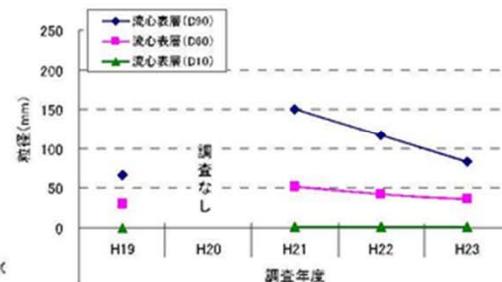
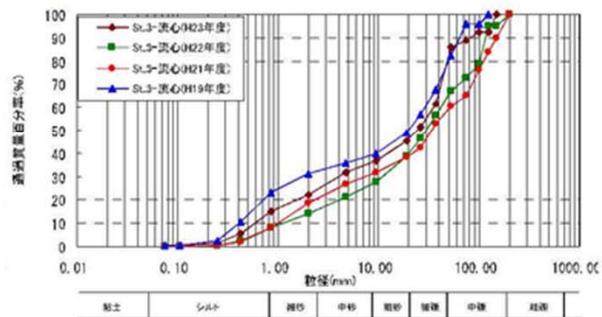


※第6回志津見ダム・尾原ダムモニタリング委員会配布資料（資料-4）より引用。

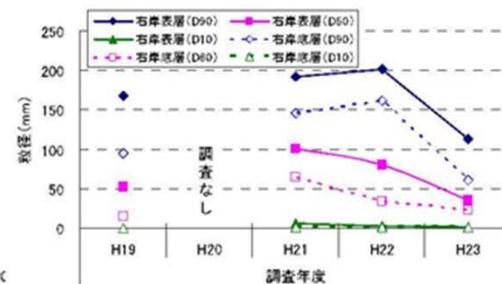
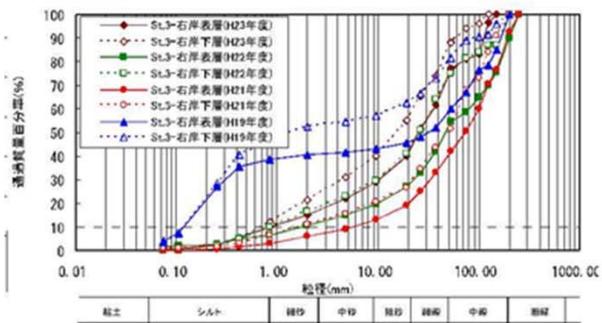
## 左岸



## 流心



## 右岸

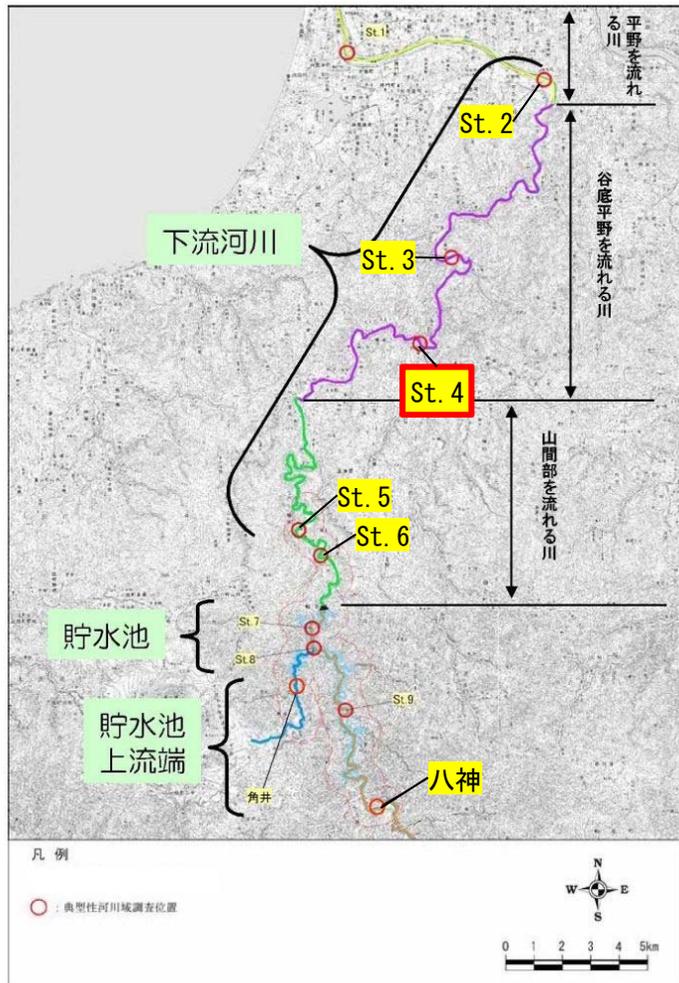


St. 3（谷底平野部）

# 3. 神戸川の水質について 河床材料

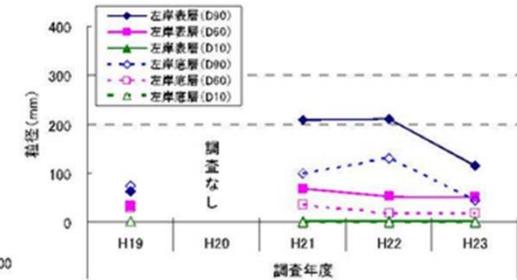
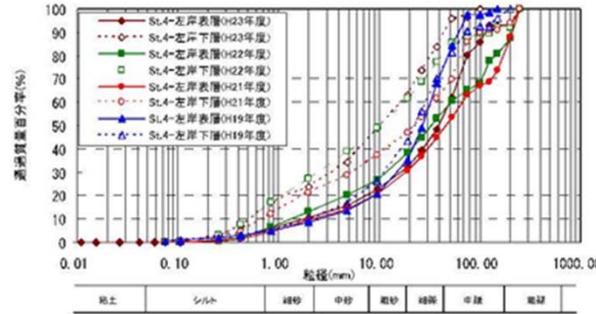
## ■ 粒径加積曲線（平面採取法）

いずれの地点でも、概ね粗石（75~300mm）から2mm以下の砂分まで幅広い粒径分布となっている。

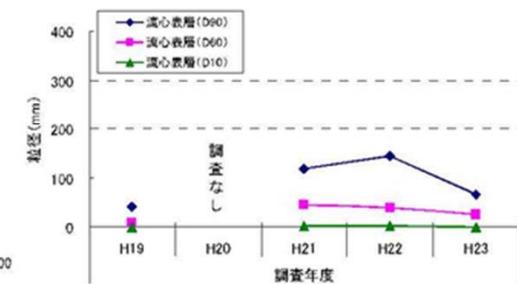
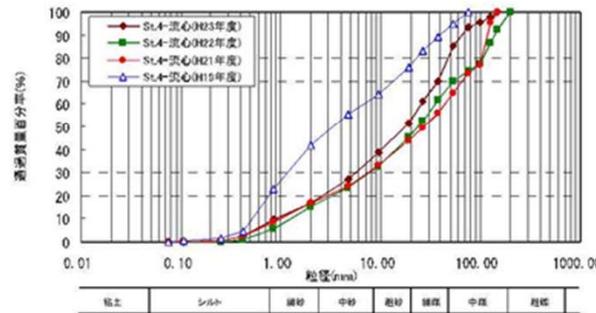


※第6回志津見ダム・尾原ダムモニタリング委員会配布資料（資料-4）より引用。

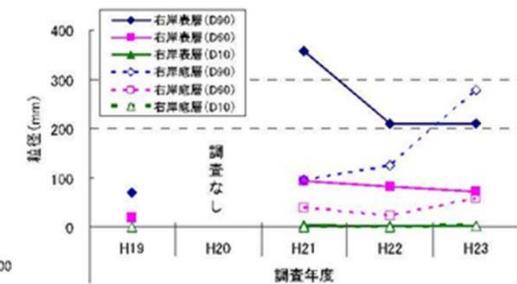
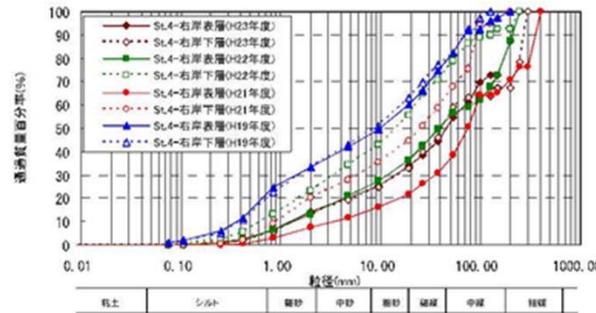
## 左岸



## 流心



## 右岸

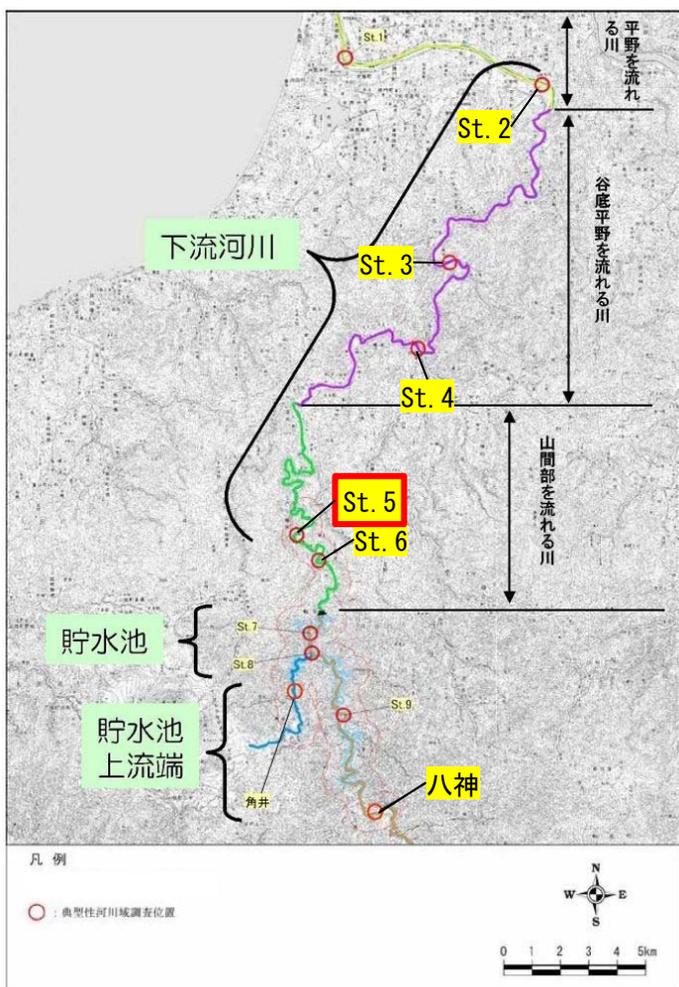


St. 4（谷底平野部）

# 3. 神戸川の水質について 河床材料

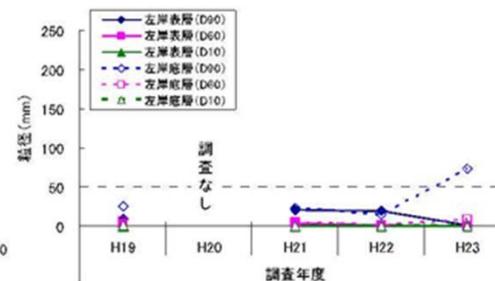
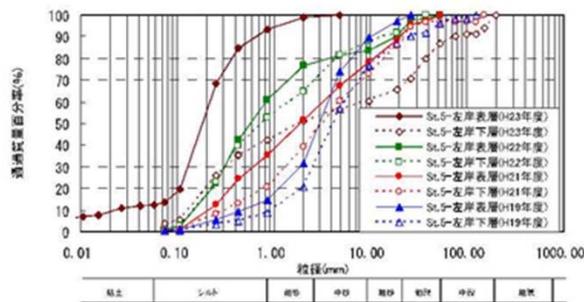
## ■粒径加積曲線（平面採取法）

いずれの地点でも、概ね粗石（75～300mm）から2mm以下の砂分まで幅広い粒径分布となっている。

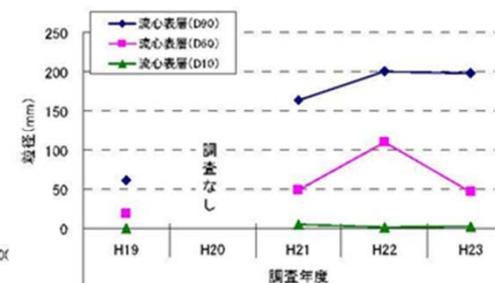
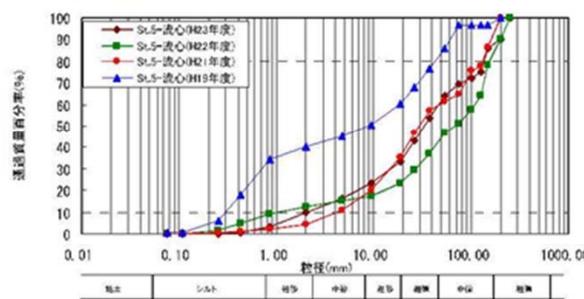


※第6回志津見ダム・尾原ダムモニタリング委員会配布資料（資料-4）より引用。

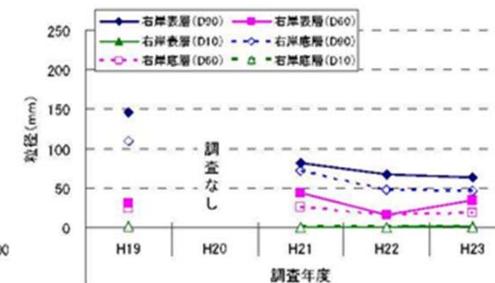
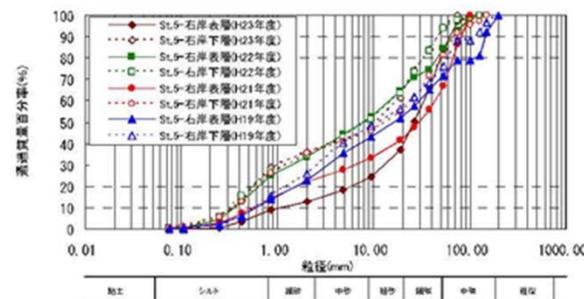
## 左岸



## 流心



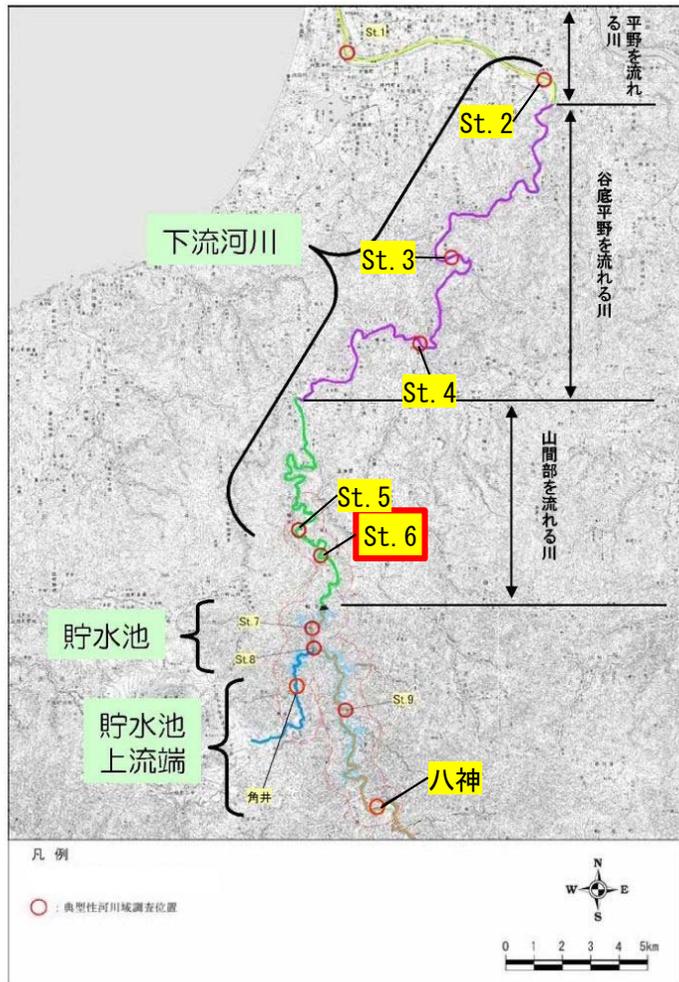
## 右岸



St. 5（山間部）

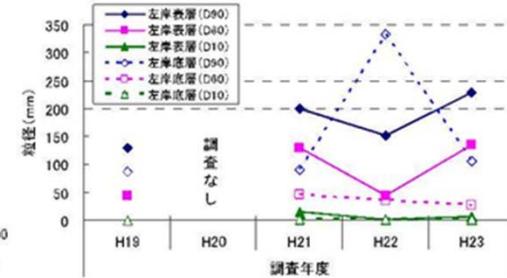
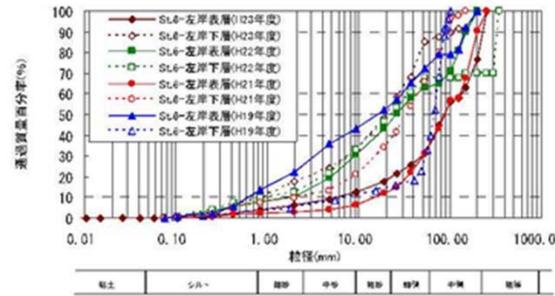
# 3. 神戸川の水質について 河床材料

■粒径加積曲線（平面採取法）  
 いずれの地点でも、概ね粗石（75~300mm）から2mm以下の砂分まで幅広い粒径分布となっている。

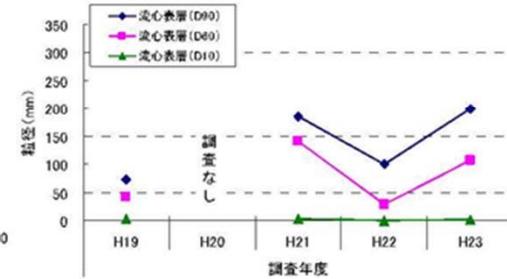
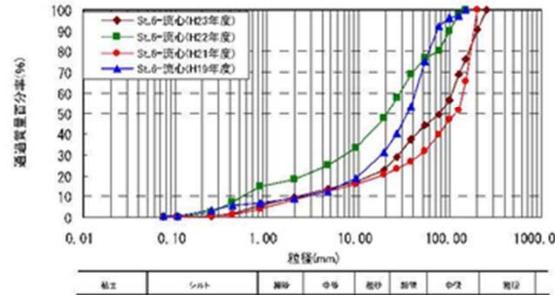


※第6回志津見ダム・尾原ダムモニタリング委員会配布資料（資料-4）より引用。

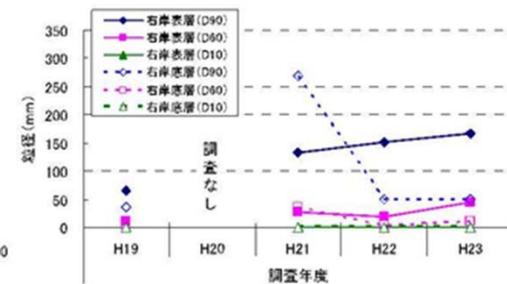
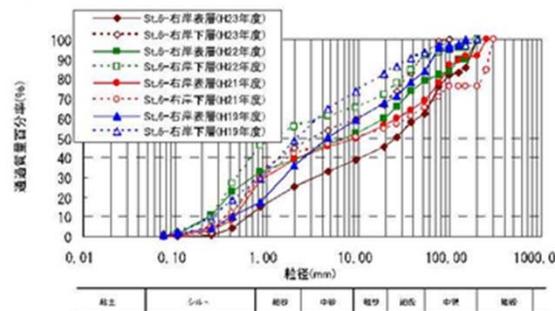
## 左岸



## 流心



## 右岸

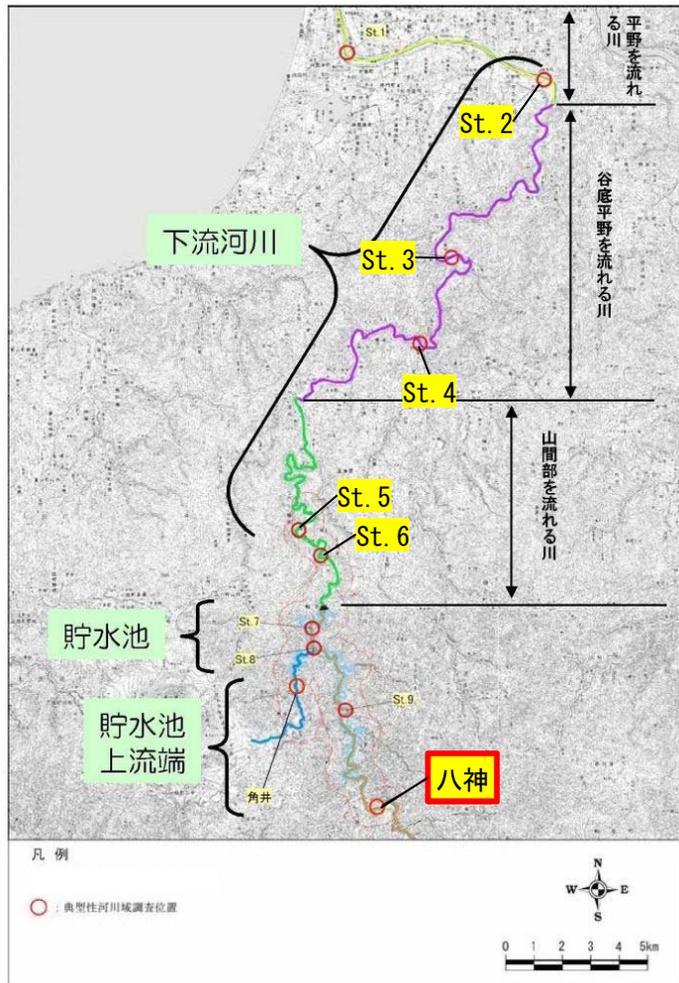


St. 6（山間部）

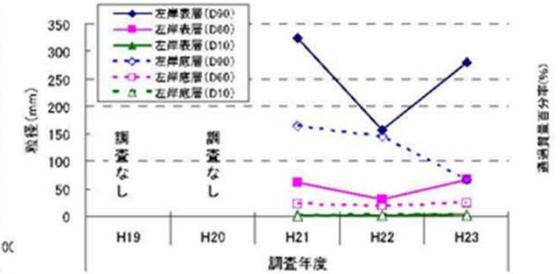
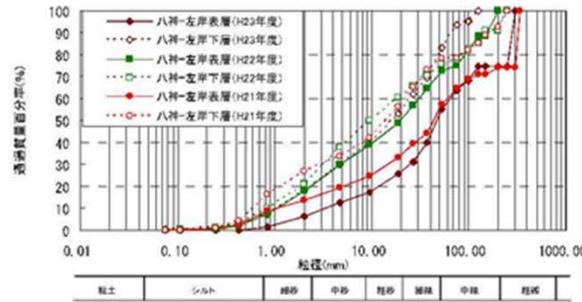
# 3. 神戸川の水質について 河床材料

## ■粒径加積曲線（平面採取法）

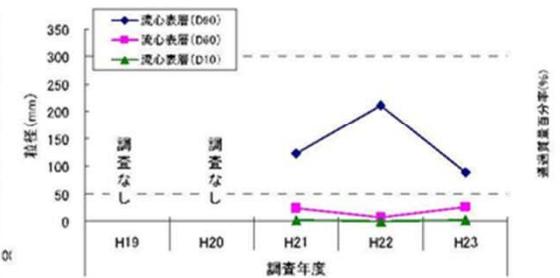
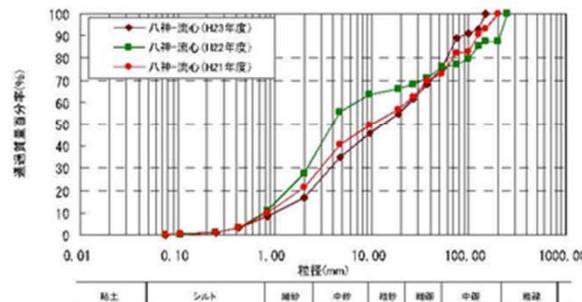
いずれの地点でも、概ね粗石（75～300mm）から2mm以下の砂分まで幅広い粒径分布となっている。



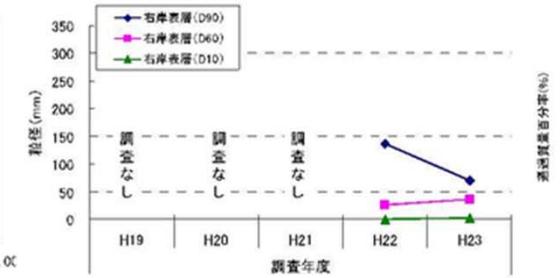
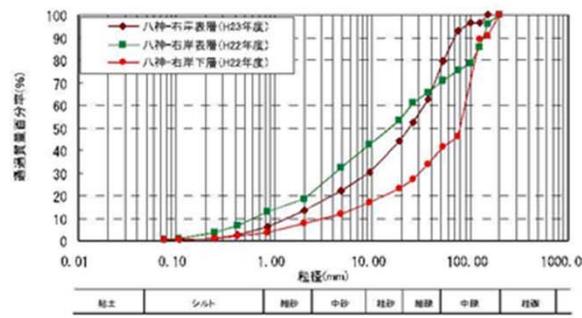
### 左岸



### 流心



### 右岸



八神

※第6回志津見ダム・尾原ダムモニタリング委員会配布資料（資料-4）より引用。

### 3. 神戸川の水質について 動植物相・河床材料

#### ■まとめ

項 目	ま と め
魚類	<p>下流河川においては、いずれの区間でも志津見ダム湛水前後で魚類相に大きな変化はみられていない。</p> <p>志津見ダム貯水池上流端においては、オイカワやトウヨシノボリの個体数が増加している。</p>
底生動物	<p>個体数に変動はみられるが、種構成ではカゲロウ目やトビケラ目が優占しており、大きな変化はみられない。</p> <p>志津見ダム貯水池上流端においては、止水性の種を多く含むハエ目が優占するようになった。</p>
植生	<p>出水の頻度が低下したことに加え、試験湛水後、出水時の流量が低下したことにより河道内の攪乱頻度が低下し、植生遷移が進行した可能性がある。</p> <p>St. 1、2は、河道掘削や河川敷整備などにより、平成22年度に一～二年草が優占しているところが多かったが、多年草の群落へと植生が遷移していた。</p> <p>志津見ダム試験湛水後、St. 3、4では、ネコヤナギ群集の定着・拡大、St. 5、6では、ツルヨシ群落やオギ群落の拡大がみられる。</p>
付着藻類	<p>平成23年度の調査で種数が多い傾向がみられたが、湛水前後で珪藻綱の種数が多い傾向は変わっておらず、種構成には大きな変化はみられなかった。</p> <p>クロロフィルaは、平成24年1月にSt. 3、6で高い値を示した。</p>
河床材料 (粒径加積曲線)	<p>いずれの地点でも、概ね粗石(75~300mm)から2mm以下の砂分まで幅広い粒径分布となっている。</p>